

エコアクション21

環境活動レポート

2023 年度版

(運用期間 2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日)



2024 年 7 月 23 日

JANITOR
SERVICE

九州チャーターサービス株式会社

もくじ

1. 事業の概要	・ ・ ・ 1
2. 環境活動の取組体制	・ ・ ・ 2
3. 認証・登録の対象範囲	・ ・ ・ 2
4. 許可の内容、施設等の状況、処理実績	・ ・ ・ 3
5. 環境方針	・ ・ ・ 4
6. 環境目標	・ ・ ・ 5
7. 環境活動計画	・ ・ ・ 6
8. 環境目標の達成状況	・ ・ ・ 7
9. 環境活動計画の取組結果の評価、今後の取組内容	・ ・ ・ 8
10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	・ ・ ・ 9
11. 代表者による全体評価と見直しの結果	・ ・ ・ 10

1. 事業の概要

1) 会社概要

商号	九州チャニターサービス株式会社
所在地	〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴一丁目5番26号
連絡先	Tel 093-561-8000 Fax 093-561-8110
ホームページ	https:// www.kyushu-janitor.jp/
創立	1959年7月
資本金	3,000万円
代表者	代表取締役 山中 祐樹
事業内容	一般廃棄物収集運搬業（積替え保管なし）、産業廃棄物収集運搬業（積替え保管なし）、総合ビルメンテナンス業(オフィスビル清掃全般、環境衛生管理、設備管理、貯水槽清掃、防除業務)
事業年度	4月～翌年3月
従業員数	125名
会社履歴	1959年 7月 北九州清掃センター として発足 1960年 4月 九州チャニターサービス株式会社 に社名変更
環境管理 責任者及 び担当者 の連絡先	責任者 : 山中 篤史 担当者 : 山中 篤史 連絡先 : Tel 093-561-8000 Fax 093-561-8110 E-mail atsusi.yamanaka@janitor.co.jp

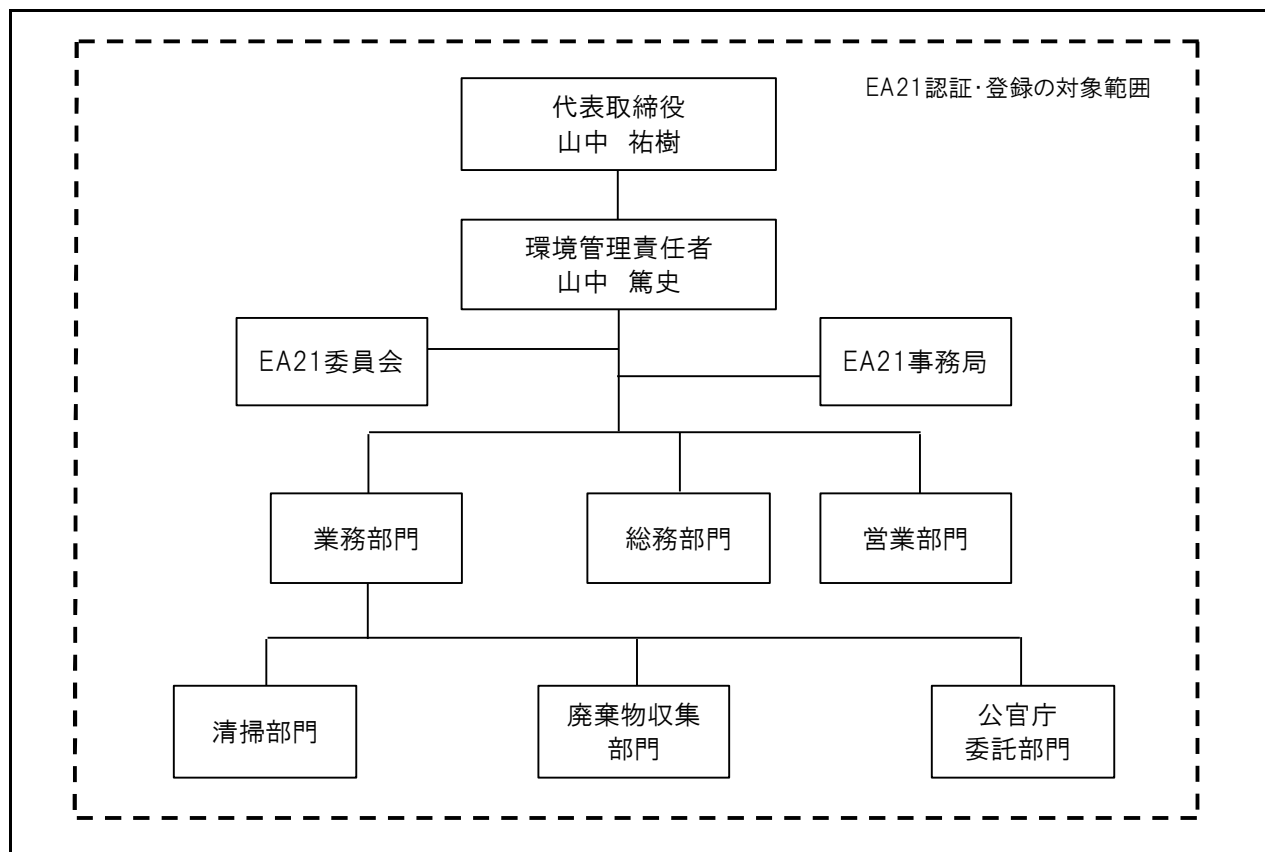
2) 事業の規模

活動規模		単位	2021年度	2022年度	2023年度
受託した廃棄物の運搬量	産業廃棄物	t	129	137	158
	事業系一般廃棄物	t	3,032	3,192	3,098
	合計	t	3,161	3,329	3,256
売上高		-	売上高区分A	売上高区分A	売上高区分A
従業員 ※2	従業員数 ※1	人	105	117	126
	従業員数(換算人数)	人	79	86	87
	対象範囲の従業員数	人	79	86	87
保有車両台数	廃棄物収集運搬車	台	8	8	9
	業務用車	台	8	9	9

備考：売上高区分 A：5億円未満
B：5億円以上10億円未満
C：10億円以上

- ※1. 非常勤役員も含めた総人数で従業員数を算出しています。
 ※2. 2019年度より従業員の換算人数、対象範囲の従業員数の
 計算方法を若干変えている為以前の数値と開きがあります。

2. 環境活動の取組体制



3. 認証・登録の対象範囲

登録組織名	内容
対象事業所	本社 〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴一丁目5番26号
対象活動	一般廃棄物収集運搬業(積替え保管なし) 産業廃棄物収集運搬業(積替え保管なし) 総合ビルメンテナンス業 ・オフィスビル清掃全般、環境衛生管理、設備管理、貯水槽清掃、防除業務

4. 許可の内容、施設等の状況、処理実績

1) 許可の内容

認可・許可の府県	許可名称	許可番号	許可の年月日	有効期限の年月日
福岡県	産業廃棄物収集運搬業	第04000029189号	2020年3月12日	2025年3月11日
北九州市	一般廃棄物収集運搬業	北九一廃第032号	2024年4月1日	2026年3月31日

2) 事業の範囲

・産業廃棄物の事業範囲(17品目)
燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、ゴムくず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、ばいじん類、政令第13号廃棄物、(汚泥、廃油、廃プラスチック、廃酸、廃アルカリ、金属くず、ガラスくず等については、水銀使用製品産業廃棄物を含む)、(燃え殻、汚泥、廃酸、廃アルカリ、鋳さい、ばいじんについては、水銀含有ばいじんなどを含む)

- ・一般廃棄物の事業範囲：A類（ふん尿を除く一般廃棄物）
- ・積み替え、許可の条件：一般・産業廃棄物共に積み替え保管施設はない。
- ・許可の条件：なし

3) 保有車両

2tダンプ	1台
2tパッカー	4台
軽トラック	2台
軽ダンプ	1台
業務用車※	9台

※ 営業、清掃作業の使用車両合計台数

4) 処理実績

処理方法等	廃棄物等種類	処理量(t)		
		2021年度	2022年度	2023年度
収集運搬	一般廃棄物	3,032	3,192	3,098
	産業廃棄物(計)	129	137	158
	(汚泥)	81	66	76
	(繊維くず・動植物性残さ)	29	44	52
	(廃プラスチック類)	2	1	1
	(金属くず)	0.3	0.0	0.0
	(ガラス類)	18	26	29
収集運搬量合計		3,161	3,329	3,256

5. 環境方針

環 境 方 針

【企業理念】

- 一、私達はお客様の心を心として仕事に真実をつくします。
- 一、私達は常に笑顔で助け合い今日の仕事に励みます。
- 一、私達は社長と共に社業の発展と自らの幸福を目指して働きます。

【環境方針】

1. エコアクション21に基づく環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして取り組みます。
 - 1) 省エネ活動（電気、燃料）によって二酸化炭素排出量削減に取り組みます。
 - 2) 水使用量の削減に取り組みます。
 - 3) 廃棄物の排出削減に取り組みます。
2. 環境関連法規等を遵守します。
3. 環境目標を定め、定期的に見直し、継続改善に努めます。
4. 化学物質使用量の適正管理に努めます。
5. グリーン製品および環境負荷のより少ない用品を購入するように努めます。
6. 受託した廃棄物の適正処理および排出事業者のリサイクルへの理解促進に取り組みます。
7. 行政機関などの環境保全施策に協力します。
8. 環境活動レポートを作成し、環境への取組の状況を公表します。

制定日 2015年 8月4日

改定日 2015年 8月27日

 **九州ジャンターサービス株式会社**

代表取締役 山中 祐樹

6. 環境目標

環境目標（2023年度）

環境目標	単位	基準年	単年度目標	中長期目標	
		2022年度実績	2023年度	2024年度	2025年度
		2022年4月～ 2023年3月	2023年4月～ 2024年3月	2024年4月～ 2025年3月	2025年4月～ 2026年3月
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	64,265	62,980 (-2%)	62,337 (-3%)	61,694 (-4%)
①電気使用量の削減	kWh	10,321	10,115 (-2%)	10,011 (-3%)	9,908 (-4%)
②ガソリン使用量の削減	L	5,214	5,110 (-2%)	5,058 (-3%)	5,005 (-4%)
③軽油使用量の削減	L	18,684	18,310 (-2%)	18,123 (-3%)	17,937 (-4%)
④都市ガス使用量の削減	m ³	66	65 (-2%)	64 (-3%)	63 (-4%)
2. 水使用量の削減	m ³	453	444 (-2%)	439 (-3%)	435 (-4%)
3. 事務所から排出した 一般廃棄物の削減	kg	1,300	1,274 (-2%)	1,261 (-3%)	1,248 (-4%)
4. 化学物質使用量の 適正管理	kg	3.4 ※2	適正使用・適正管理に努める		
5. グリーン購入の推進	% (購入金額)	95	適正購入に努める		
6. 環境関連の 市民講座等への参加	件 (参加数)	13	16 (+20%)	17 (+30%)	18 (+40%)
7. 受託廃棄物の リサイクル促進	件 (対応数)	52	57 (+10%)	60 (+15%)	62 (+20%)

備考

1. 購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.370kg-CO₂/kWh(九州電力(株)2019年度実排出係数)を使用した。

2. ()は基準値に対する増減率を示す。

※1 2021年度の実績をベースに増減を考慮し算出したもの。

※2 化学物質は変動が大きく、且つ取扱い数量が少ないため、定性目標とする。

※3 処理を受託した廃棄物排出業者に対する分別への協力対応を行った件数。

7. 環境活動計画

・環境目標を達成するために策定した具体的な取組(環境活動計画)は以下のとおりです。

1. 二酸化酸素排出量の削減(基準年比1%削減)

取組目標		活動項目	
①	電気使用量の削減 (中間期を除く)	1	室温を決めてエアコン設定温度を調節する (冷房期28℃,暖房期20℃)
		2	不要電力消費抑制(不要な場合は機械を止める運動)
		3	フィルター清掃
②	ガソリン使用量の削減	1	アイドリングストップ手順を決め、実行する
		2	車両の燃費向上(エコドライブ)
③	軽油使用量の削減	1	搬送ルートと搬送方法の見直し
		2	定期的な車両メンテナンス
④	都市ガス使用量の削減	1	使用時間を決め、実行する

2. 水使用量の削減(基準年比1%削減)

取組目標		活動項目	
①	節水活動の推進	1	ごみ収集車の洗車時の節水活動
		2	節水対策用具への取り組みの見直し

3. 事務所から排出した一般廃棄物の削減(基準年比10%削減)

取組目標		活動項目	
①	一般廃棄物の排出抑制	1	使い捨て商品の使用、購入の抑制
		2	詰替え可能な製品の利用

4. 化学物質使用量の適正管理

取組目標		活動項目	
①	年間化学物質使用量の把握・管理	1	使用量の把握と管理
		2	SDSの取得と管理

5. グリーン購入の推進(購入金額比率95%)

取組目標		活動項目	
①	グリーン購入の推進	1	事務用品、清掃用品の見直し改善

6. 環境関連の市民講座等への参加(基準年比10%増加,参加数20件)

取組目標		活動項目	
①	環境関連講座等への参加	1	講座等への参加

7. 受託した廃棄物のリサイクル促進(基準年比10%増加,対応数30件)

取組目標		活動項目	
①	ごみの分別の促進	1	分別方法のお知らせの配布・掲示
		2	収集時の分別確認と報告

8. 環境目標の達成状況

環境目標	単位	基準年 2022年度 実績 (2022年4月～ 2023年3月)	2023年度 (2023年4月～2024年3月)		目標達成率	達成判定
			目標	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	64,265 ^{※1}	62,980 (-2%)	63,230	99%	△
①電気使用量の削減	kWh	10,321 ^{※1}	10,115 (-2%)	10,389	97%	△
②ガソリン使用量の削減	L	5,214 ^{※1}	5,110 (-2%)	4,842	106%	○
③軽油使用量の削減	L	18,684 ^{※1}	18,310 (-2%)	18,643	98%	△
④都市ガス使用量の削減	m ³	66 ^{※1}	65 (-2%)	66	98%	△
2. 水使用量の削減	m ³	453 ^{※1}	444 (-2%)	456	97%	△
3. 事務所から排出した 一般廃棄物の削減	kg	1,300 ^{※1}	1,274 (-2%)	1,230	104%	○
4. 化学物質使用量の 適正管理	kg	3.4 ^{※1}	3.4 ¹	適正使用、適正 管理に努める	—	○
5. グリーン購入の推進	% (購入金額)	95% ^{※2}	適正購入に努める			
6. 環境関連の 市民講座等への参加	件 (参加数)	13	16	12	75%	×
7. 受託廃棄物の リサイクル促進	件 (対応数)	58 ^{※2}	57	45	79%	×

備考 ()は基準年に対する増減率を示す

※1: 2020年度の実績をベースに算出したもの。

※2: 目標達成率の算出: 1,2,3は削減率(目標/実績)、5,6は向上率(実績/目標)

※3: 購入電力の二酸化炭素排出係数は0.370kg-CO₂/kWh(九州電力(株)2019年度実排出係数)を使用した。

※ 達成判定区分 ○: 目標達成率110%以上 △: 100%以上110%未満 ×: 90%未満

9. 環境活動の取組結果の評価、今後の取組内容

取組目標	達成判定	活動項目	※実施判定	評価および今後の取組内容
1. 二酸化炭素排出量の削減	△	車両のガソリン、軽油を中心に使用量の削減活動に取り組む。	△	<取組結果> 全体を通して削減目標の4つの項目の内の3項目は目標達成とはならなかったが、昨年の排出量に比べると削減は出来ている。目標、昨対比ともに達成できるように次期は努める。
①電気使用量の削減	△	室温を決めエアコン設定温度で調節する。 (冷房期28℃、暖房期20℃)	△	<取組結果> 春、秋時期の消費電力は、昨年に比べ抑える事が出来たが、7～12月のエアコン稼働のピーク時期の使用電力が増えた結果、年間目標の未達や昨年の電気の使用量を上回る結果となってしまった。
		不要電力消費抑制 (不要な場所の電気は切る)		<次年度の取組内容> 清掃道具のバッテリーの充電が完了したら、長時間放置せずにすぐにコンセントを抜く。買い替えが必要な製品は省エネ製品に切り替える。
②ガソリン使用量の削減	○	車両の燃費向上(エコドライブ)	○	<取組結果> エコドライブの取り組みの結果が、今期も使用量の削減の結果に繋がっている。
		定期的なエコドライブ会議の開催 (他部門間の情報共有)		<次年度の取組内容> 運転業務がある部署間で定期的なエコドライブ会議を行い情報共有をしっかりと行う。社内チャットも活用する。
③軽油使用量の削減	△	搬送ルートと搬送方法の見直し	△	<取組結果> 渋滞を避ける搬送ルートの情報共有や、時間や回数を決めてのごみ収集など改善出来た点は良かった。不良車両の廃車や新車両も1台導入して燃費も若干改善出来た。
		細めな車両メンテナンス		<次年度の取組内容> メンテナンス不足により修理が立て続き、他の車両の稼働が増えていたので日頃からメンテナンスを怠らないようにする
④都市ガス使用量の削減	△	使用時間を決め、実行する	△	<取組結果> 使用量の削減の為、年明けから使用頻度の少ないガスコンロを撤去した。

2. 水使用量の削減	△	使用量の削減	△	<取組結果> 蛇口にシールを張って節水を促す活動や期の後半から節水型トイレの設置や男子トイレのセンサー型の自動洗浄など設置を行った。
		節水対策用具への取り組み		<次年度の取組内容> 節水用具の見直しはつねに考えている。手洗いや洗い物用の蛇口にも節水用具をつけるか検討する。
3. 事務所から排出した一般廃棄物の削減	○	使い捨て商品の使用、購入の抑制	○	<取組結果> 詰め替え出来る用品を極力購入、使用してごみの排出量を抑える事が出来た。用品棚も整頓し、重複購入、使用期限切れ、在庫過多状況にならないように心掛けた
		詰替え可能な製品の利用		<次年度の取組内容> 日用品は折り畳みが出来る容器タイプを利用して、ごみの排出のコンパクト化を試みる

4. 化学物質使用量の適正管理	○	使用量の把握・管理	○	<取組結果> 化学物質管理者の選任を行い、使用量を把握、管理の強化を行った。
		SDSの取得と管理		<次年度の取組内容> SDSの管理を徹底し引き続き取り組みを継続していく。
5. グリーン購入の推進	×	事務用品、清掃用品の見直し、改善	×	<取組結果> 事務用品を本からインターネット購入に切り替えてから、グリーン購入の徹底が出来てない時期があった。
				<次年度の取組内容> 製品を検索する時も、ワード検索を行いグリーン製品の選定や、1度買ったグリーン製品は極力リピート購入をして、購入率を下げないように取り組んでいく

6. 環境関連の市民講座等への参加	×	講座等への参加	×	<取組結果> 今期も環境関連の市民講座への参加は、講座の日程の確認や共有不足によりWEBも含め講座への参加が出来てなかった
				<次年度の取組内容> チームメンバーを増やして参加出来る機会を増やしていく。スケジュールの共有を強化していく。
7. 受託廃棄物のリサイクル促進	×	分別方法のお知らせの配布・掲示	×	<取組結果> 目標は達成出来なかったが、新規、既存顧客へのごみの分別のお知らせの配布は今期も出来ていた。
		収集時の分別確認と報告		<次年度の取組内容> 事業ごみの回収時に、まだまだ分別が守られてない事が多々あるので、根気よくリサイクルの推進や指導を行っていく。

備考)※実施判定区分 ○:良好 △:おおむね良好 ×:よろしくない



1-①
電気使用量の削減
夏場など湯沸かし器
の早めのOFF
クールビズ、
ウォームビズの推奨



1-②
ガソリン、軽油
の使用量削減
最新版エコドライブ
資料の掲示、配布



1-③
都市ガス使用量の削減
冬の使用時間、
温度設定の管理
ガスコンロの撤去



2
水使用量の削減
ごみ収集者の
洗車時の節水
節水型トイレの新設



3
事務所から排出した
一般廃棄物の削減
詰め替え用品使用に
よる消耗品ごみの削減



4
化学物質使用量の
適正管理
化学物質管理者の選定



5
グリーン購入の推進
用品購入時はグリーン
購入製品を確認



6
環境首都検定受験
環境教育の一環とし
て、毎年10名以上受験



7
受託廃棄物のリサイク
ル促進
分別方法のお知らせ、
分別促進



8
エコアクション感謝状
2015年から取り組みを
開始して今年で8年目

10. 環境関係法規への違反、訴訟等の有無

- ・ 2023年度は、当社に係わる環境関連法についての違反および他社からの訴訟はありません。
- また、関係当局よりの違反指摘は、過去3年間はありません。
- ・ 地域住民および関連する機関等からの苦情もありません。

主な環境関連法規		主な遵守事項	遵守判定※
廃棄物処理法	一般廃棄物	一般廃棄物の収集運搬許可・更新	○
		適正処理	○
		帳簿の作成・保存	○
	産業廃棄物	産業廃棄物処理事業等許可の取得（含む水銀）	○
		適正処理	○
		帳簿の作成・保存	○
建築物衛生法	貯水槽清掃業の登録要件	○	
	建築物ねずみ昆虫等防除作業の登録要件	○	
	建築物環境衛生総合管理業の登録要件	○	
フロン排出抑制法		業務用空調機簡易定期点検	○

備考）※遵守判定区分 ○：遵守 ×：不遵守 -：該当なし

1 1. 代表者による全体評価と見直しの結果

2023 年度は、世界中で平均気温が記録的に上昇し観測史上最も暑い 1 年となり、各地でその影響で異常高温や異常気象、自然災害が相次ぎ、熱波、干ばつ、大規模な洪水、山火事が世界各地で頻発し、農作物の不作や食料価格の高騰といった影響も顕著に表れ、日本でも梅雨時期の全国各地で記録的な大雨や酷暑で最高気温更新など観測されるなど、地球温暖化の影響がますます深刻化している事が感じられる 1 年でした。

当社は 2015 年からエコアクションに取り組んでいて、今年で 8 年目になります。2023 年度のエコアクションの活動は下記の通り評価します。

〈取組の全体評価〉

- 1) 2023 年度は目標値を達成する項目は多くはありませんでしたが、詳細を見ると、
昨年に対しては削減出来た項目はかなりありました。

電気の使用量は、春や秋の電気使用量は抑える事が出来ましたが、夏の酷暑の影響や冬の時期に従業員の体調管理でエアコンの稼働を抑える事が出来ずに、結果的に目標値や昨年の使用量に対して抑える事が出来ませんでした。

ガソリンの使用量の削減は目標値を達成し、昨年より使用量を抑える事が出来ましたが、**軽油の使用量の削減**につきましては、車両の細かいメンテナンス不足により修理が立て続けに起こり、その間に他の車両の稼働時間や回数や移動距離が増えた為、削減目標値達成に届きませんでした。年明けに車両を 1 台入れ替えましたので、これからの燃費向上に期待します。既存車も車両メンテナンスの強化や、混雑を避けた収集ルートの見直し、エコドライブの再確認、実行を行います。

水の使用量は目標を達成する事が出来ませんでした。昨年より使用量を削減する事が出来ました。目に留まりやすい色の節水呼びかけシールを追加し、節水型の様式トイレ設

置など節水用品の新たな試みを行いました。

ガスの使用量の削減は昨年と同じ数値になりました。後半ではありますが、あまり使用していないガスコンロを思い切って撤去しました。

- 2) 当社の活動促進項目としまして、事務用品、清掃用品等の環境負荷が少ない**グリーン製品の購入**は目標値を達成する事が出来ませんでした。昨年と比べると購入率は上がっています。以前よりもネット購入が増えたので、購入の際に検索画面で環境に優しい製品や、グリーン製品の検索を習慣つけて購入するように心がけています。
リサイクルや詰め替え製品の使用により消耗品の長期使用化が、事務所のごみの排出量の削減に繋がりました。
- 3) **環境関連の市民講座への参加**は、WEB 講座の活用や、市民講座開催の随時確認が必要だと感じました。
- 4) **受託廃棄物のリサイクル促進活動**は、今年も継続して促進活動が出来ていますが、缶ビンペットボトルの排気や事業ごみの分別やリサイクルは特に厳しくなって来ていますが、まだまだゴミの分別が出来ていない場所が多いので、取引先へのゴミの分別の徹底やリサイクル促進活動の対応はこれからも継続して行っていきます。

〈見直し結果として〉

年々著しく変わる環境の変化を見ながら、改善点の分析、修正を行い目標や昨対比を超える事が出来るように、社員一丸になって活動に取り組んでいきます。